継続する菌血症患者より一過性に分離された *Dysgonomonas* 属の 1 症例

◎田口 舜[1)]、山口 健太[1)]、矢野 智彦[1)]、香月 万葉[1)]、佐野 由佳理[1)]、平野 敬之[1)]、船島 由美子[2)]、永沢 善三[2)]
地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館[1)]、国際医療福祉大学 福岡保健医療学部[2)]

【はじめに】*Dysgonomonas* 属は 2000 年に菌種登録されたグラム陰性通性嫌気性球桿菌であり，一般的に比色法や質量分析法での菌種同定は困難といわれている。今回我々は *Dysgonomonas* 属による菌血症を経験したので報告する。

【症例】患者は 79 歳女性。胆管癌が疑われ精査のため当院に紹介，肝門部胆管癌と診断され手術を行った。術後 32 日間の間に提出された血液培養(2 セット×5 検体)からは AmpC 型 β ラクタマーゼ(AmpC)非産生 *Enterobacter cloacae* complex，AmpC 産生 *E. cloacae* complex，MRSA，*Enterococcus faecalis*，*Candida tropicalis* を検出し，CTRX，CPFX，VCM，MEPM，ABPC，MCFG の投与歴があった。以降の胆汁と血液から小型のグラム陰性球桿菌が分離され LVFX が投与された。

【検査】小型のグラム陰性球桿菌は培養 1 日目，炭酸ガス培養条件下のヒツジ血液寒天培地に微小な灰色集落を認めた。オキシダーゼ試験は陰性であり培養を延長した集落は苺様の果実臭を放っていた。院外の MALDI バイオタイパーにて *D. gadei* (Score 値 2.057)と同定したが，特徴的な臭気より *D. caphagoides* を疑い 16S rRNA 遺伝子解析を依頼中である。

【考察】当院は同定機器として VITEK2 と VITEK MS を保有しているが，ともに本属がデータベースに登録されておらず同定は困難であった。ただし本症例で分離された株は特徴的な苺様の果実臭を放っており，菌種推定の一助になるのではないかと考える。

佐賀県医療センター好生館 ― 0952-24-2171